

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和6年度第1回）議事概要

日時：令和6年4月26日（金）10:30～12:00

場所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、大島正伸理事、平沼直人理事、山内英子理事、
本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、
瀬戸中央病院長、土井東病院長

I. 前回（令和5年度第12回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を間野前理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 医療機器等調達に係る収賄事件に関する改善措置について
資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・eラーニング等でマニュアルを周知することを検討しているのか。
- 4月から新たな研修を開始する。まずは調達部門の新任向けの研修などで活用し、必要に応じて他の研修にも適用していきたい。
- ・どの部門でもリスクがあるため、センター全職員が当事者意識を持つようにしていただきたい。不正や不祥事には、仕組みの不備及び運用の不備の両面がある。今回、仕組みの不備の是正をしていただいたが、運用の不備についても気を付けて進めていただきたい。今回の事案では個室で面談していたとのことだが、国立病院機構では個室で面談することは禁止となっている。監査の教科書によると、不正は「不正の動機→不正の合理化→不正の機会→実現」という順で起こるとされている。今回、不正の機会を減らすことに取り組んでいただいたが、原点である不正の動機や合理化を生まないための組織や職場のあり方を意識して進めることも重要である。

2. 全国がん登録システム及びがん登録オンラインシステムの発生事案について
資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・再発防止策である十分な開発検討期間を設ける事は、今回の事案に限らず様々なシステム開発や調達にも関わることである。同様の事案が起きない様に、センターとしても万全の体制を整えたい。
- ・産業界でも様々な事案が起きるが、プレッシャーが要因であることが多い。今回の事案も時間のプレッシャーが背景にあったと考えられる。センター全体でリーガルチェック等のサポート体制を築くことが必要ではないか。システム改修の契約時には、どの段階で不具合に気付けるかを確認して責任訴求条項に反映することが重要である。
- ・今回は審議という事であるが、承認とするのではなく継続審議や条件付き承認という扱いが良いのではないか。
- 現時点での原因究明と再発防止策の整理を行い、早期に対応していくべきものはできるだけ早く進めた方がよいと考え、今回ご審議いただくこととした。この再発防止策に沿って進めていくこととするが、今回の報告で終了とするのではなく、今後新たな課題等が判明した場合には、再度必要な整理を行いご審議をお願いする。
- 今回は、現時点でこの取り纏めの方向性で問題ないかを審議するという位置づけとした。

Ⅲ. 報告事項

1. 随意契約の指針の一部改訂について
資料に沿って報告された。
2. コンプライアンス室の体制強化等
資料に沿って報告された。
3. 政府の会議の状況
資料に沿って報告された。
4. 広報実績等
資料に沿って報告された。
5. 投資委員会報告
資料に沿って報告された。
6. 3月分医業件数等
資料に沿って報告された。